

# 第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

団体名	森林塾青水
活動タイトル	上ノ原入会の森のほどよい利用を通じた保全管理
活動地域	群馬県（みなかみ町藤原）



4月29日「野焼き」（前日の予行演習）



7月15日「防火帯刈払い」（技術指導）



8月19日「生き物調べ」（ルートセンサス）

## 【団体概要】

群馬県みなかみ町にある奥州藤原氏の隠れ里「藤原」、この地にある薪炭林と茅草原からなるかつての入会地「上ノ原」の保全活動に取り組んでいます。会員数65名、モットーは「飲水思源」

主な活動は、火入れ、茅刈り、ミズナラ林の整備、生物モニタリング、青少年教育やリトリートなど。

## 【活動の目的・目標】

草原と里山林の管理活動を継続、多様な生物が棲む健全な里山を保全するのが基本目的。

主な活動は、

- ・野焼き、防火帯づくり
- ・茅刈り、茅搬出
- ・草原への侵入樹木の除去
- ・森の整備、リトリートや環境教育への活用
- ・希少植物の域外保全、栽培手法研究
- ・その他生態系サービスの活用

## 【今回の活動で苦労した/工夫したこと】

- ・野焼きは天候に恵まれず実施できず。  
→前日の「予行演習」を拡大し一部実施、当夜の「車座講座」で野焼き関連の座学を実施した。
- ・リトリート活動では参加者の体力レベルに応じて森林整備作業を取り入れた。
- ・防火帯整備では、初心者刈払機使用の技術指導をするなど、担い手拡充に努めた。
- ・来年実施予定の生物モニタリング調査に先立ち、一部テスト実施を行った。

## 【活動の内容・成果】

開催回数：4回（ほかに、総会、中学校指導）

参加人数：95名

達成率：100%

- ・野焼きでは当日の降雨のため完全実施はできなかったが、学識者なども含めた多彩多様な参加者47名が集い、座学で知識・経験の交歓ができた。
- ・森林整備では、2014年にテスト的に植生遷移研究のため皆伐した場所の一部を除伐するなど、新しい試みを実施した。
- ・そのほか、活動の合間をみて、希少植物保護のための獣害防護柵の設置、昨年新設したミニビオトープの整備を行った。
- ・全活動を通じて、体力に応じた役割の分担、刈払機や手ノコの操作など技術の水平展開を行った。
- ・イベント初日の宿泊時、懇親会を兼ねて「車座講座」実施。例えば直近8月は、青水の歩み、流域連携先その他サイトからの活動報告、翌日の作業の説明などをし、情報共有、啓蒙をはかった。

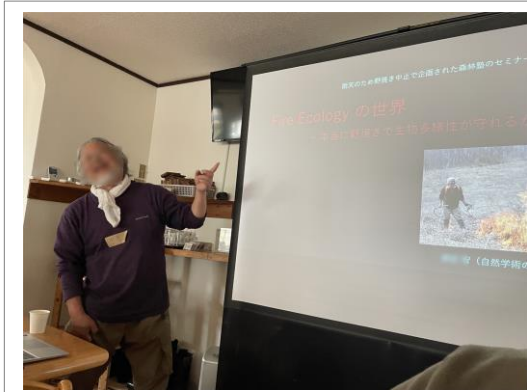
## 第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

こちらに、1ページ目の以外の活動写真を添付し、右側に説明をご記入下さい。



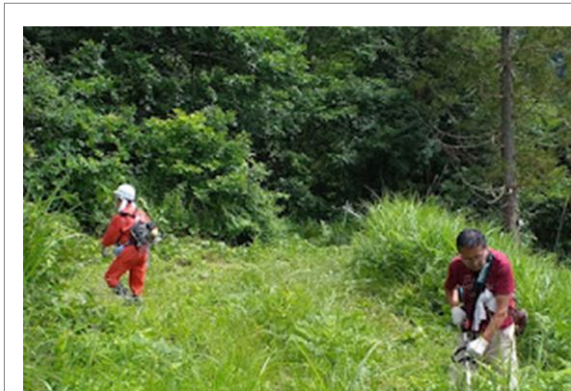
4月29日、「野焼き」イベント初日。  
安全な野焼き実施のために、防火帯の整備に気を配っている。夏の刈払いに加え、前日にも人海戦術で、防火帯の可燃物除去作業をおこなった。



4月30日、雨天の為予定していた野焼きは実施できなかったため、急遽、折から参加していただいていた小幡先生に植物関節を、津田先生に「Fire ecology（野焼きの科学）」の特別授業をしていただいた。



6月18日「森林整備でリトリート」  
柳沼会員、井上会員のリードのもと、各人が思い思いの場所に佇んで、自然の声に耳を傾ける。こうした「静」のリトリート活動のあと、森林整備など「動」を通じての心身リフレッシュ。生態系の新しい活用法として、今後も活動の中に取り入れていく予定。



7月16日「防火帯仮払い」  
野焼きを安全に行うための必須作業。  
酷暑の中、ベテランも新人も一心に汗を流す。